

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町岳陽高等学校

実際のところ、天気はどうだったのか

時分	降水量	気温	風向・風速(m/s)			日照時間(分)	
	(mm)	(°C)	平均	風向	最大瞬間風速		
14:30	0	24.7	5.6	南	10.4	南	1
14:40	0	24.8	5.9	南	11.8	南	2
14:50	0	24.8	4.7	南	9.3	南	0
15:00	0	25.1	5.1	南	11.8	南	3
15:10	0	25	5.9	南	11.2	南南東	2
15:20	0	24.9	5.4	南	9.5	南	5
15:30	0	25	5	南	10.2	南南東	0
15:40	0	24.8	5.6	南	12.2	南南東	0
15:50	0	24.2	6.9	南	12.3	南	0
16:00	0	24	6.6	南南東	12.3	南	0
16:10	0	23.9	6.1	南南東	11.6	南東	0
16:20	0	23.9	5.3	南南東	10.2	南南東	0
16:30	0	24	5.1	南	11.7	南南東	0
16:40	0	24.1	5.7	南南東	10.7	南南東	0
16:50	0	24	5.2	南南東	8.4	南南東	0
17:00	0	23.9	3.4	南	8.2	南	0
17:10	0	23.9	3.9	南	9.3	南	0
17:20	0	24.1	4.2	南	9.3	南	0
17:30	0	24.4	4.6	南	9.4	南	0
17:40	0	24.7	3.5	南	9.4	南	0
17:50	0	24.3	2.6	南南西	5.9	南	0
18:00	0	24.6	2.8	南	7.7	南	0
18:10	0	24.1	3	南南東	6.7	南	0
18:20	0	23.4	1.9	南西	5	南南西	0
18:30	0	22.3	1.5	西	3.7	西南西	0
18:40	0	21.9	1.3	西北西	3.1	西北西	0
18:50	0	21.5	1.6	北北西	3.5	北北西	0
19:00	0	21	1.3	北西	2.8	南西	0
19:10	0	20.8	1.2	北	3.1	北	0
19:20	0	20.9	1.4	北北西	3	北北西	0
19:30	0	21.1	2	西北西	4	北西	0
19:40	0	20.3	2	北西	4.6	北	0
19:50	0	20.7	2	北西	5.2	西北西	0
20:00	0	20.2	1.9	南	5.2	北西	0
20:10	0	20.6	1.7	北北西	4	北西	0
20:20	0	20.7	2.7	北西	6.5	北西	0
20:30	0	20.1	2.1	北北西	4.8	北西	0
20:40	0	19.9	1.5	北西	3.4	西北西	0
20:50	0	20	1.4	西北西	3.2	北西	0
21:00	0	20.2	2.4	北	5.3	北	0
21:10	0	20.4	2.5	北東	6.2	北	0
21:20	0	19.8	1.7	北北西	4.4	北	0
21:30	0	19.6	1.3	西北西	3.1	西北西	0
21:40	0	19.7	0.9	北北西	2.1	西北西	0
21:50	0	19.8	1.8	北北西	2.4	北北西	0
22:00	0	19.6	1.8	北北西	3.1	北北西	0
22:10	0	19.3	1.7	西北西	2.8	北	0
22:20	0	19.1	1.5	北西	3.2	北西	0
22:30	0	18.9	0.8	西北西	1.7	南	0
22:40	0	19	1.3	北西	3.1	西北西	0
22:50	0	18.7	1.6	北北西	4.1	西北西	0
23:00	0	19.5	1.8	北西	4.9	西	0
23:10	0	19.6	2.5	北北西	4.2	北西	0
23:20	0	21.2	2.3	北	4	北西	0
23:30	0	21.3	1.9	北西	4.7	西北西	0
23:40	0	21	1.9	北西	4.3	北北西	0
23:50	0	20.5	1.5	北	3	北北東	0

時分	降水量	気温	風向・風速(m/s)			日照時間(分)	
	(mm)	(°C)	平均	風向	最大瞬間風速		
0:00	0	20.3	1.6	北	3.4	北北東	0
0:10	0	19.9	0.7	東北東	2.1	東南東	0
0:20	0	20	1.4	北西	2.5	西	0
0:30	0	22.2	2.2	南東	7.7	南	0
0:40	0	22.9	4.8	南南東	10.2	南	0
0:50	0	23.2	5.1	南南東	10.9	南南東	0
1:00	0	23.3	5.2	南南東	12.8	南	0
1:10	0	23.2	5.1	南南東	10.5	南東	0
1:20	0	23.3	5.9	南南東	11.4	南東	0
1:30	0	23.3	5.6	南南東	10.3	南東	0
1:40	0	23.5	6.5	南南東	13	南東	0
1:50	0	23.4	6.3	南南東	12.5	南南東	0
2:00	0	23.5	6.3	南南東	13.9	南南東	0
2:10	0	23.4	6.5	南南東	12	南南東	0
2:20	0	23.4	6.9	南南東	14.3	南南東	0
2:30	0	23.4	6.6	南南東	12.7	南南東	0
2:40	0	23.5	6.4	南南東	12.3	南南東	0
2:50	0	23.4	6.5	南南東	11.6	南南東	0
3:00	0	23.5	6.4	南南東	13.3	南南東	0
3:10	0	23.5	6.5	南南東	12.2	南南東	0
3:20	0	23.4	5.4	南南東	9.9	南南東	0
3:30	0	23.2	5.8	南南東	10	南南東	0
3:40	0	22.7	5.5	南南東	10.1	南	0
3:50	0	22	4	南南東	8.2	南南東	0
4:00	0	21.4	2.6	南	5.2	南南東	0
4:10	0.5	19.4	3.6	北西	7.8	北西	0
4:20	0.5	18.8	3.3	北西	6.4	北北西	0
4:30	0.5	18.6	2.6	北北西	5.3	北西	0
4:40	1	18.3	2.8	北北西	5.8	北西	0
4:50	2	18.2	2.7	北北西	6.8	北	0
5:00	0.5	18.2	1.9	北北西	3.8	北北西	0
5:10	1	18.2	2	北西	3.6	北西	0
5:20	0.5	18.1	1.8	北北西	3.4	北	0
5:30	0	18	1.9	北北西	3.5	北北東	0
5:40	0.5	17.9	1.7	北北西	3.5	北北西	0
5:50	0	17.8	1.5	北北西	3	北西	0
6:00	0.5	17.6	1.2	北西	2	北西	0
6:10	0	17.5	1.3	北西	2.6	西北西	0
6:20	0.5	17.5	1.3	西北西	2.2	北西	0
6:30	0.5	17.6	1.3	西北西	2.7	西北西	0
6:40	0.5	17.6	1.4	北西	2.6	北西	0

昨日、帰宅してから妻に聞くと、8日から9日にかけては、松本でも相当風が強かったという。悔しかったので、どのくらいの風が吹いていたのかを推定してみた。

左の表は気象庁の過去の天気データから拾ったものである。蝶ヶ岳のデータはなかったのですが、最も近い「穂高」の10月8日、9日の天候を調べてみると、テン場に到着した15時ころから

は常に10分間の最大瞬間最大風速が10mを超えている。我々がテントを設営している時間帯は平均でも5mから7m弱という記録が残っているから、ふきさらしの蝶のテン場では山頂ではおそらくその倍から3倍は吹いていたのではないかと。強風20mの中でのテント設営だったわけである。

我々は日が沈んでからしばらくして、いったん2つのテントを撤収した。その後はいったん少し

風は弱まったが、その期間、我々はテントの中で耐えていた。しかし、テントの中では風が静まったという印象は全くない。そして、再び更に強い風を感じたのが0時ころである。穂高でも0時40分頃より再び風が強くなっている。風向きは南に変わったのも全号に記載した通りだが、その点も一致している。このころも設営時同様に、時に30

mを越す風が吹いていたのだと類推する。そんな中での撒収！生徒たちは、よく耐え、頑張ってくれた。昨日、穂高駅について簡単なミーティングをした際、「命の危険も感じる中無事に帰ってこられたのがよかった」と感想を述べる生徒が多くいたが、まさに山の怖さを実感していたのだらうと、今改めて思う。

なお、昨日のかわらばんに対して兵庫県の桑田克治先生がすぐに返事をくださったので、それを紹介しておきたい。

大西先生 早速のかわらばんありがとうございます。また、連休の蝶が岳ご苦労様です。8日夜の風雨はすごかったですね。本校山岳部も四国剣山に遠征していましたが、1700mの稜線のサイト場は夜中の風雨がものすごく、テント倒壊はしませんでした。日曜日も雨とガスのため、縦走をあきらめ、剣山と次郎笈を登っただけで昨日下山しました。日本海を通る低気圧からのびる前線の威力は予想以上にすごかったと思います。お疲れ様でした。兵庫県立神戸高校 桑田克治

連休中、ほかにも大変な経験をされた高校もあるかと思います。そんなところもご報告いただければ、安全登山の上で有意義な交流ができるのではないだろうか。ぜひ、簡単でもいいのでレポートしていただければと期待します。

高校生の山岳部員の推移についての私感

高体連 長野県大会			
参加者数 推移			
年	男子	女子	合計
1996	162	44	206
1997	140	54	194
1998	133	48	181
1999	104	40	144
2000	97	33	130
2001	105	28	133
2002	92	37	129
2003	102	33	135
2004	83	34	117
2005	91	37	128
2006	89	18	107
2007	111	18	129
2008	88	15	103
2009	88	18	106
2010	110	20	130
2011	111	20	131
2012	131	22	153
2013	122	31	153
2014	156	35	191
2015	160	31	191
2016	196	44	240

高校山岳部の生徒が増えている。時々そのことについて、コメントを求められるが、最近僕は次のように思う。中高年の山ブームもひと段落、山ガールも一息ついている今、高校山岳部が、元気がいいのは紛れもない事実である。

現に日本中の高校生が減少し、高校の統廃合も進んでいる中で、山岳部員の実数は増えている。インターハイでも長い間フルエントリーのなかった女子が、この2年間はフルエントリーとなった。ここ20年間の長野県の高体連の県大会参加者数の推移は左表のとおりであるが、これを見てもそれは明らかである。

これは僕の印象だが、2010年ごろから間違いなく高校山岳部を志向する生徒は増え始めた。そしてこれに火をつけたのが、あの東北大震災だったのではないかと思う。というのは、あの地震で人間の作り出したものの愚かさに若者たちが気づいたのではないのかということである。

地震とそれに続く津波で世の無常を感じた僕らにこれでもかと最後のとどめを刺したのが、あの福島原発事故だったのでなかったか。それに僕ら以上に敏感に反応したのが感性豊かな若い世代の人たちだったのではないか。

物質文明の愚かさの先にある本当の豊かさとは、山や自然のもつ豊かな癒しの力や、アウトドアの世界における人間の存在の無力さや小ささに気づきつつも、それに時には対峙しながら、また時には知恵を持って立ち向かいながら、自己を高めていくことだと気づいた若者が、それを実現できる場を「山岳部」に求めているというのは穿った考え方だろうか。あながちそうとは言い切れないと思うが、みなさんはどうお考えだろうか？